

土木学会選奨土木遺産 きょう 京 橋

京へ通じる賑わいの橋

広島市中区・南区

初代京橋は、広島城の築城後に毛利輝元が架けたもので、その名は他の京橋と同様京へ向かう道の意があります。現在の京橋は、国道整備の一環として永久橋に改築されたもので、昭和2年（1927）8月に完成しました。

一見、コンクリート橋のように思えますが、実際はゲルバー鋼鈹桁橋で5主桁のうち外桁の外面をコンクリートで被覆、下部はRC橋台、石張RC壁式橋脚にすることで石造りの高欄や親柱との調和を図っています。同時期に建設された猿猴橋のように豪華な装飾品こそありませんが、開通式には数千人の見物人が訪れたとされています。

明治前期の京橋のにぎわいが描かれているのが、広島商店案内所が紹介された冊子「広島諸商仕入買物案内記」です。厳島神社大祭禮への御供船出船の略景として、幟や提灯で飾り立てた御供船と京橋、雁木、分祀された市杵嶋姫社（厳島神社）が描かれています。その京橋も、嘉永5年（1852）の大例祭の時には、御供船の見学に訪れた観衆で落橋したそうです。

それから1世紀を待たずして、京橋も8月6日の惨劇に遭遇しますが、幸いにも落橋を免れたため、爆心地から逃れる人々やかけつける救護班の路として活躍しました。翌月の枕崎台風でも流失せず、今日までその威容を保っています。こうした試練を乗り越えた京橋は、戦後70年を経て今なお架橋時の姿を保っており、平成23年には「被爆に耐えた装飾的橋梁」として、猿猴橋とともに土木学会選奨土木遺産に選定されました。

なお国土交通省・広島県・広島市では、太田川デルタを対象とした「水の都ひろしま構想」に基づき、河岸緑地の利用の活性化や個性と魅力ある風景づくりに取り組んでいます。その一環として実施されているのが、にぎわいのある水辺づくりを進める京橋川右岸地区の「京橋川オープンカフェ」です。カフェで一息入れるために水辺に近づいてみると、かつて御供船出船を楽しんだ人々の喧騒に引き込まれるかもしれません。

■位置図



厳島神社祭禮御供船出船之図 橋本町
（「広島諸商仕入買物案内記」南海堂）



コンクリート橋に見えるが、鋼鈹桁の外表面をコンクリートで被覆し、石造りの高欄や親柱と調和させた京橋



河岸緑地を利用した京橋川オープンカフェ



京橋 昭和2年8月3日（供用開始） 3径間ゲルバー鋼鈹桁橋 橋長64.5m
京橋川に見られる雁木は、川と人によって育まれた水辺の文化を物語っている。